

SUSTAINABILITY REPORT 2012

● サステナビリティレポート2012
Year ended March 31, 2012



ウシオは「光」の可能性を追求し、 地球と人々の未来を照らす 新たなソリューションを提供します。



今日社会は、地球規模での人口増加や環境問題、エネルギー問題などをはじめとする多くの課題を抱えています。私たちはこれらの課題を解決する答えのひとつが「光」にあると考えています。ウシオは、長きにわたり培ってきたさまざまな光技術を応用・展開していくことでソリューションを提供し、皆さまとともに持続的に成長していく道を拓いていきたいと考えています。

USHIO GROUP 企業理念

①

会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を
一致させること。

②

国際市場において
十分競争力のある製品・サービスを 提供すること。

③

優れた製品、新しい研究開発を通じ
進んで 社会に貢献すること。

④

オープンで自由な企業活動を通じ 競争力を高め
安定利潤を確保すると共に 企業の社会的責任を果たすこと。

USHIO GROUP企業理念

当社グループ社員のあらゆる活動の
根源となる企業理念は、2005年3月期
に刷新しました。当社の設立当初に制
定された「基本方針」の精神を継承しつ
つ、時代の変化によって鮮明になっ
てきた社会的課題、「企業の社会的責任を
果たすこと」を軸としています。

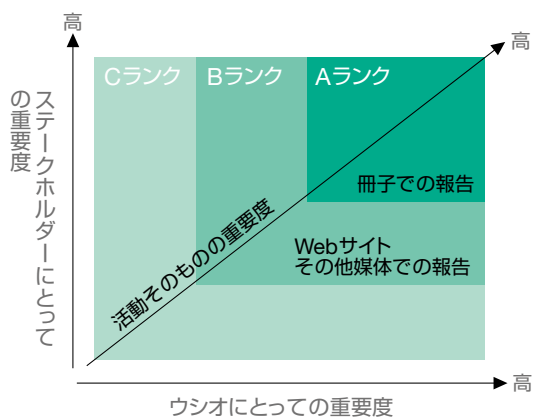
編集方針

「サステナビリティレポート2012」の作成にあたっては、経営とCSRの課題の関連性をより高めた報告とするように心がけました。アニュアルレポートなど企業の活動をお伝えするさまざまな媒体との連携を意識し、編集を行なっています。

① マテリアリティの考え方

さまざまなCSR取り組み課題の中から、ステークホルダーとの対話・意見交換を通じ、企業が直面している社会的課題の抽出とウシオの取り組みの重要度を検討しました。中でも重要度が高いと判断したものを冊子で報告し、掲載しきれなかった取り組みについてはWebサイトで紹介しています。

ウシオグループにおけるマテリアリティの考え方



② アニュアルレポート

ウシオグループの詳しい事業報告については、「アニュアルレポート2012」またはウシオグループのWebサイトをご覧ください。



●Webサイトの活用について

より網羅的で詳細な報告のために、ホームページを活用しています。
下記マークのついた項目に関してはウシオのホームページもご覧ください。

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/index.html>

●報告対象範囲

期間：基本的に2011年4月1日～2012年3月31日までの活動内容についてご報告していますが、それ以前より活動している内容や、一部2013年3月期の取り組みも含めます。

組織：ウシオ電機全事業所および国内外のグループ会社

目次

C2 企業理念

01 編集方針

02 トップメッセージ

05 特集 Part 1「光で治す」
Part 2「光線治療と
エキシマフィルター」

10 ウシオのCSR

14 **ガバナンス**
コーポレート・ガバナンス/
コンプライアンス

16 **人**
社員とともに

18 **品質**
お客さま・
お取引先さまとのかかわり

21 **社会**
社会とのかかわり

22 **環境**
環境への取り組み

24 事業概況

25 第三者意見
第三者意見を受けて

●ウシオグループの活動を象徴する3色の葉
表紙に採用している「3色の葉」。これは「光の三原色」と環境の象徴である「若葉」をモチーフに、サステナブル経営の3つの要素、「経済性」(レッド)、「社会性」(ブルー)、「環境」(グリーン)をデザインしたものです。3色それぞれの葉が、毎日の地道な活動によってすくすく成長し、大きな幹を創りだすことを目指しています。



トップメッセージ

当社は、2012年3月期にCSRに対する取り組み課題を明確化するための「CSR行動計画」を策定し、日々のオペレーションにおけるCSR活動の浸透を図りました。これは、事業活動とCSRが今後ますます不可分になるとの認識に基づいており、当社が将来の成長に向けた長期的な取り組みを行なっている分野において、特に重要な視点であると考えています。



当期の業績と今後の見通し

まず当社の現在を示す当期の業績からご紹介します。当期は、売上高が前期比3.4%増の1,500億円、営業利益が23.8%減の106億円、経常利益が24.5%減の131億円、当期純利益が8.7%減の87億円と、増収減益となりました。

増収の要因は、装置事業が大幅に伸長したことによります。なかでも映像装置は14%の伸びを示しました。しかし、光源事業の市場が停滞したことや、装置事業が国内エレクトロニクス業界の低迷の影響を受けたこと、秋口からの急激な円高の影響などにより、利益項目では減益を余儀なくされました。

2013年3月期は、依然不透明な状態が続くとみています。しかし、ウシオグループでは中期ビジョンの目標達成を目指し、2013年3月期の売上高を前期比9.9%増の1,650億円、営業利益12.2%増

収益の推移

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
売上高	148,148	120,846	119,079	145,125	150,087
営業利益	20,050	8,963	7,262	14,034	10,696
当期純利益	15,486	3,481	7,071	9,577	8,748
自己資本利益率(ROE)(%)	9.4	2.3	4.7	6.2	5.6

(百万円)
3月31日終了年度

の120億円、経常利益10.6%増の145億円、当期純利益14.3%増の100億円とする増収増益を見込んでいます。

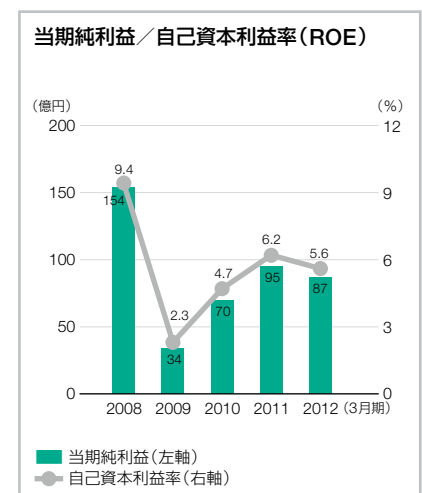
中期ビジョン

2012年5月、中期ビジョンを発表しました。映像装置では、デジタルシネマ事業で収益を確保しつつ、成長ドライバーであるノンシネマ事業の成長と拡大を図ります。光学装置では、液晶・半導体・高精細プリント基板製造を支える製品群を成長ドライバーとし、次世代半導体製造用、最先端露光事業(EUV)の確立と収益への貢献を急ぐ考えです。また、医療や環境、バイオなどの社会的課題分野にも積極的な展開を行ない、これらの施策により、2015年3月期には売上高2,000億円、営業利益250億円を目指します。

ウシオグループのあるべき姿

中期ビジョンでは、ウシオグループのあるべき姿として「光関連事業において、世界No.1のブランドと技術力を誇り、顧客ニーズを満たす最適なソリューションを常に提案できる【光創造企業】を目指す」ことを謳っています。お客さまや世の中が、何か新しい要素なり新しい分野を探索しているときに、光によってソリューションを提供していくのが、われわれウシオグループであるという自負を持ち、実践していくということです。

エレクトロニクス分野においては、新たな機能やプロセスの要求に応じた製品の提供を行ない、常に光の新しい用途、光の新しい商品とともに成長してきました。その他、映像・画像分野における光のニーズに応えていくことに加え、医療や環境、バイオといった社会課題の解決につながる分野にも、長期的視点を取り入れながら積極的に取り組んでいます。お客さまや世の中に本当に必要なモノであれば、それを一番に提供するのは【光創造企業】であるウシオグループだと考えています。



「変革」の時代と求める人材像

市場ニーズの多様化やグローバル化はますます進展しています。マーケットがアジアをはじめとする新興諸国に広がっている中で、これまでとは違う環境で、まったく新しいニーズが出てくる可能性があります。その違いを肌で感じてフィードバックし、日本と現地が一体となって製品の開発やビジネスにつなげることのできる人材の必要性は特に増えています。また、グループの社員数は、すでに日本人より外国人のほうが多くなっており、新しいものを生み出し、成長していくためには今後ますますダイバーシティの推進も必要です。

こうしたことも含め、現在は「変化」にとどまらない、「変革」が必要な時代であると言えるのではないのでしょうか。昨日と同じやり方、今までと同じ発想では時代の変化に対応できないというのはもちろんのこと、ちょっとした改良や変化ではもう追いつかない時代になっています。CSRの視点を通じて、常に新たな価値を創造し、変革を起こし続けることでお客さまや世の中の期待に応えていけるよう取り組んでまいります。

2012年10月

代表取締役社長

菅田史朗

ウシオグループのあるべき姿

光関連事業において、世界No.1のブランドと技術力を誇り、顧客ニーズを満たす最適なソリューションを常に提案できる【光創造企業】を目指す

中期ビジョン

2015年3月期 数値目標		重点事業戦略	
売上高	2,000億円	映像装置	デジタルシネマ事業の収益確保 ノンシネマ事業の成長と拡大(成長ドライバー)
営業利益	250億円	光学装置	液晶・半導体・高精細プリント基板製造を支える製品の提供(成長ドライバー) 露光装置: アドテックエンジニアリングとのシナジー 液晶パネル製造用装置: 大型テレビ用以外にも展開 新プロセスの拡販
ROE	10%以上	その他	次世代半導体製造用、最先端露光事業(EUV)の確立 新製品、新事業(メディカル、ライフサイエンス) 固体光源 業務提携・合併・M&Aの推進

特集 Part 1「光で治す」 Part 2「光線治療とエキシマフィルター」

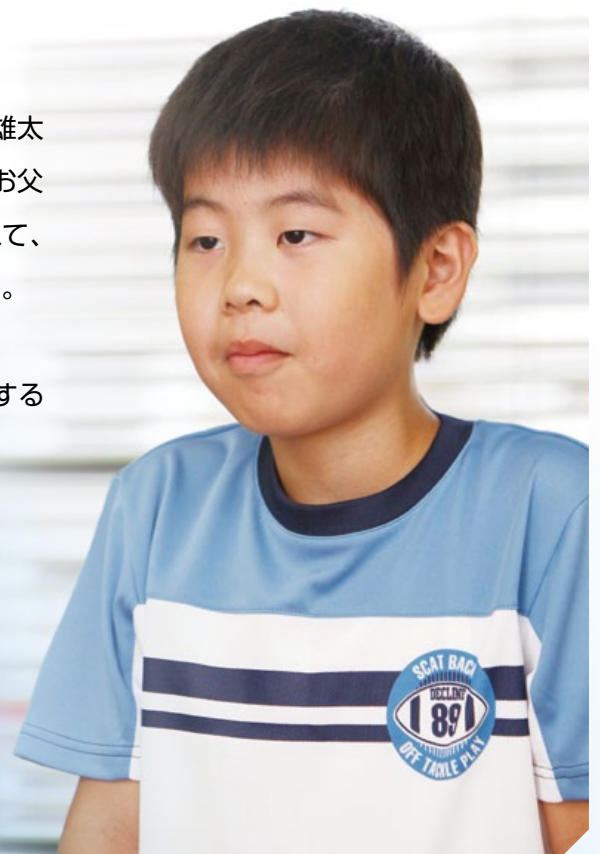
花本雄太くんは、昆虫と本とポケモンが好きな小学5年生です。ご両親とお姉さんとの4人家族に育ち、元気に学校へ通う雄太くんの異変にご両親が気付いたのは、小学1年生のある朝でした。起きてきた雄太くんの口のあたりが、ぼんやりと白かったのです。その時お母さんは、口がよごれているのだと思って拭いてあげたそうです。

近くの皮膚科に行き白斑症と診断され、光線治療が有効だということもわかったのですが、従来の治療器では健康な皮膚まで紫外線を浴びる危険性がありました。「この子がまだ小さいので心配でした。北九州市立八幡病院に、小さい子供にも副作用の少ないよい光線治療器があると紹介されて来たのです」と、お父さんは語ってくれました。

「最初のころの通院は週1回でした。治療自体はほんの10秒ほどなのですが、クルマで40分の通院はなかなか大変でした」と、お父さんは当時を振り返ります。「治療を始めて1ヶ月くらいたったころ、皮膚の白いところが赤くなり、赤みがひいたら健康な肌色になっていました。通院の間隔は徐々に長くなり、今は半年に1回でよくなっています」

「すっかり、りりしくなられて」と目を細める皮膚科医の藤野先生は、雄太くんを小学1年生の当初から担当してきました。「遠いところをいつもお父さんとお母さんが一緒に来られます。雄太くんはご家族の愛情に包まれて、みなさんで乗り越えられたと思います」と、藤野先生はおっしゃいます。

現在、雄太くんが夢中になっているのは、お友達と一緒にゲームをすること。治療はどうかと尋ねると、「痛くないよ」と笑ってくれました。



Part 1

「光で治す」

自己免疫疾患という病気をご存知でしょうか。多くの人を悩ませている、いわゆる「アレルギー反応」の一種です。細菌やウイルスなど外部からの攻撃に対して自分を守る働きをする免疫細胞(白血球)が、ある日突然、自分自身を攻撃しはじめることで発症してしまうこの厄介な病気に対し、光による治療法が大きな成果を上げはじめています。

あの病気も「アレルギー」だった!?

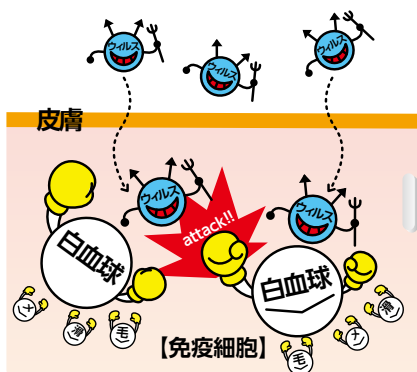
アレルギー反応としてよく知られている花粉症やじんましん、アトピー性皮膚炎。しかし最近では、白斑、乾癬、円形脱毛症、掌蹠膿疱(しょうせきのうほう)症など従来皮膚病とされてきたものから、関節リウマチのようにまったく違う症状を呈するものまでもが、実はアレルギー反応の一種である自己免疫疾患であることがわかっています。

では、なぜアレルギー反応(自己免疫疾患)はこのように一見別の病気に見え、症状にまったく共通性がない多くの疾患を引き起こすのでしょうか。その理由は、免疫細胞である白血球が活性化しすぎて暴走し、間違っただけで自分の体内細胞を攻撃してしまうからなのです。

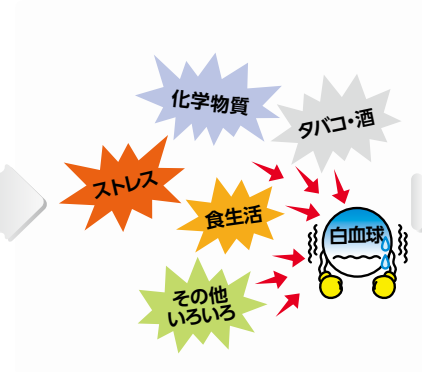
白血球が仲間を攻撃!?

たとえば、国内の患者数が10万人にのぼるといわれる白斑は、皮膚の中で色素を作る細胞であるメラノサイトが、暴走した白血球の攻撃によって機能を失い色素を生成できなくなることで発症します。同じように、円形脱毛症では毛母細胞、関節リウマチでは関節の滑膜細胞が攻撃され、機能を失った結果、発症するのです。

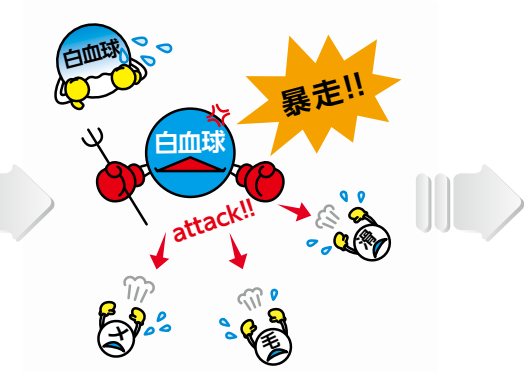
いつもの自己免疫機能



内的、外的要因で...



白血球が暴走!!



Interview with a Doctor

臨床の現場から



北九州市立八幡病院 皮膚科
医学博士

藤野雅世 先生

白斑という病気は、原因がまだ解明されていない、治療が難しい皮膚病のひとつです。痛みなどはないのですが、症状が見た目に出してしまうので、病気自体というより、それにもなう精神的苦痛が大きい病気です。これまで塗り薬や飲み薬を使った治療法はありましたが、そういった治療だけではなかなか治りませんでした。治療手段のひとつとして光線治療器の導入を検討した際、国産の治療器として日本人の肌質に適した紫外線を絞り込んでいる、ウシオの製品を選択しました。

それでも、当初は本当に治るのかわからない状況でしたが、実際に装置を使ってみて、手ごたえは想像以上だったといえます。白斑では、病変部と健常部分のなじみが非常に良いと感じており、「こんなに短い時間で終わるの!」とみなさん驚かれています。

皮膚アレルギーに紫外線治療

従来、皮膚アレルギー疾患には内服および外用の薬剤などが多く処方されてきました。しかし、なかなか症状が改善せず、さらには副作用が出るなど課題もありました。これに対し、近年注目を集めているのが紫外線治療です。




紫外線治療のメカニズムは2つ

たとえば、皮膚アレルギーのひとつである乾癬に対して、紫外線が働きかけるメカニズムは2つあります。ひとつは、直接病気の原因となっている暴走した白血球を壊してしまうこと。もうひとつは、「制御性T細胞」と呼ばれる別の白血球の数を増加させ、暴走している白血球の活性を低下させることです。つまり、紫外線には暴走して自分の細胞を攻撃している白血球の数を減らしたり、攻撃力を落とす作用があり、それによって症状の進行を止めたり、治療することができます(免疫抑制効果)。

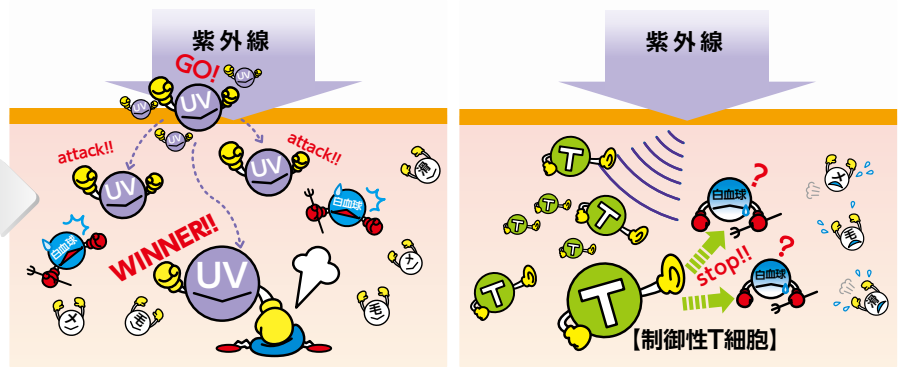
重要なのは「波長」

しかし、紫外線なら何でも良いというわけではありません。ご存知のとおり、紫外線には有害な成分も含まれています。治療効果が高く、副作用が限りなく少ない波長のみを安定して照射でき、安全に、かつ安心して使用できる光線療法機器が求められているのです。

攻撃される細胞によりまったく違う症状

-  皮膚の色素を作る「メラノサイト」を攻撃 → 白斑に
-  関節の「滑膜細胞」を攻撃 → 関節リウマチに
-  「毛母細胞」を攻撃 → 脱毛症に

乾癬に対する紫外線治療



本情報は、一般的な医学情報を多くの方々にとわかりやすく説明するもので、効果効能を示すものではありません。

Part 2

すべては患者さまのために

「光線治療とエキシマフィルター」

紫外線の免疫抑制作用を利用し、過剰反応を起こしている皮膚の症状を鎮静化させる「光線療法」。1970年代に、ハーバード大学で乾癬治療における紫外線の有効性が発見されて以来、主に治療で使われてきたのは311ナノメートル(nm)付近の紫外線でした。

しかし実は、どの波長がどの程度の効果と副作用をもたらしているのか厳密にはわからないままであり、さらに効果の高い波長の存在も指摘されていましたが、解明には至っていませんでした。



治療効果が高く、副作用を低減した光を

その解明に挑んだのが、ウシオと名古屋市立大学加齢・環境皮膚科学(森田明理教授)との共同研究チームです。「治療効果が高く、副作用を低減した光」を求めて波長を細かく分析した結果、治療効果は308nmをピークとしつつ、肌が赤くなるなどの副作用が生じる297nm以下の波長をカットした光が、最も効果的な光であるとの結論に達しました。

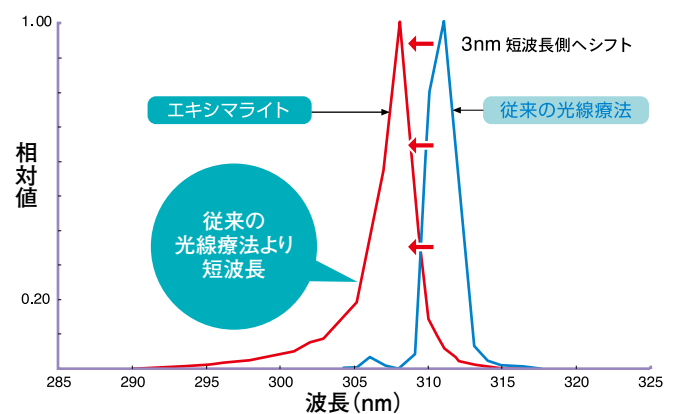
これまで誰も特定することができなかったその光は、従来の光線治療で使用されていた波長311nmよりもわずか3nm短い波長にも関わらず、より高い治療効果が期待できるようになったのです。

独自の光技術「エキシマフィルター」

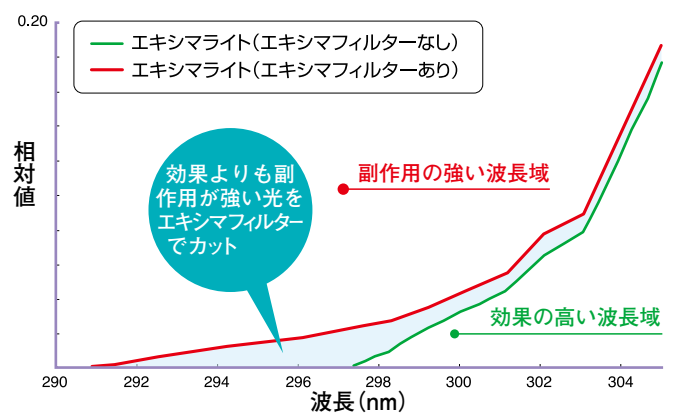
共同研究チームは、ウシオが製品化に成功したエキシマランプを応用し、1970年代当時の技術では発光できなかった波長308nmをピークとする光源を開発。さらに、副作用が大きい297nm以下の短波長域を取り除くエキシマフィルターの開発にも成功しました。

そして2008年、独自の光技術が搭載されたエキシマライトによる実用化を行ない、安全で治療効果の高い光線療法機器が実現しました。308nmエキシマライト&エキシマフィルターが搭載された皮膚科用「セラビーム®UV308」の誕生です。

波長比較



安全性とバランスの効果



Interview with a Doctor

開発者の思い



名古屋市立大学大学院 医学研究科
加齢・環境皮膚科学 教授 医学博士
森田明理 先生

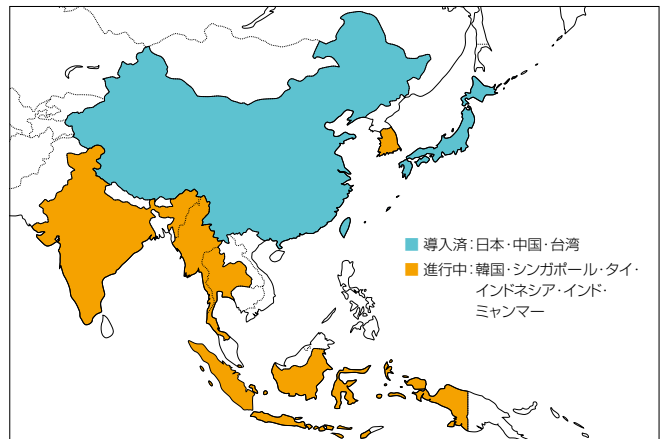
以前に比べれば光線療法もだいぶ身近なものになってきていると思います。しかしながら、紫外線治療が必要な疾患は難治性のものが多く、治療を諦めていた患者さんも少なくありません。そうした患者さん、あるいは治療に携わる先生方に、もう一歩進んだ光線治療を試していただき、新たに難病にチャレンジしていただけたら嬉しいです。

また、光線治療器は医療機器ですから、品質、メンテナンス、サポート体制の確かさが非常に重要になってきます。エキシマライトに関していえば、緻密なテクノロジーを駆使した、世界初の308nmエキシマライト&エキシマフィルターにより、安全かつ最大限の効果を可能にしました。不可能だった治療を可能にする、これこそ世界に誇る“メイド・イン・ジャパン”の技術力ではないかと思えます。

日本から世界へ

発売以来、皮膚科用「セラビーム®UV308」は、高い安全性と優れた治療効果によって皮膚科医や難治の皮膚病を抱える患者さまから好評を博し、現在、国内市場で高いシェアを獲得しています。すでに中国や台湾では医療機器としての認可を受けて発売を開始しており、さらにはアジア全域をはじめ、アメリカ、ヨーロッパなど世界へ展開していく計画です。また今後は、患部の範囲や部位によって照射範囲や位置を自在に選べるよう、ラインアップの拡充を進めています。

セラビーム®UV308の販売域



「セラビーム®UV308」導入施設(国内/一部抜粋)

現在、セラビーム®UV308は皮膚科領域の治療現場で使用されています(具体的に保険適用される疾患は、アトピー性皮膚炎、乾癬、白斑、掌蹠膿疱症、類乾癬、悪性リンパ腫、菌状肉肉症などです)。今後は、さまざまなアレルギー疾患でお困りの患者さまに光の技術をお届けしたいと考えています。

北海道	小樽皮膚科、札幌皮膚科クリニック、川村皮フ科医院、新琴似皮膚科スキンケアクリニック、福住皮膚科クリニック、いなむら皮膚科医院、みゆき皮フ科クリニック、足立皮膚科美容外科クリニック	千葉県	山崎医院	神奈川県	杉本皮膚科、齊田皮フ科、聖マリアナ医科大学病院、横須賀市立市民病院、中山皮フ科クリニック、加藤皮フ科、楠クリニック、横浜相鉄ビル皮膚泌尿器科医院、ますみ皮膚科、山川皮ふ科、シオン皮フ科クリニック	新潟県	新大駅前皮フ科	長野県	にいがわ皮ふ科、小清水医院、岡谷市市民病院	静岡県	新妻ひふ科、飯尾皮膚科医院、しずおか葵の森クリニック、いしかわ皮膚科・アレルギー科	富山県	皮膚科ちえこクリニック、富山県立中央病院	愛知県	名古屋市立大学病院、たち皮フ科クリニック、サイ皮膚科泌尿器科、愛知医科大学病院、海岸通り皮ふ科、名古屋大学医学部附属病院、独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター、社会保険中央病院	石川県	とりの皮膚科クリニック、金沢大学附属病院	滋賀県	あおき皮フ科	三重県	市立四日市病院、皮ふ科 野内クリニック	奈良県	北村皮膚科医院、山科皮膚科医院、はもり皮フ科	京都府	京都大学 医学部付属病院、京都府立医科大学附属病院、京都市立病院	大阪府	大阪大学医学部付属病院、泉谷クリニック、渋谷医院、回陽堂皮膚科形成外科医院、梅田皮膚科、川津皮膚科	和歌山県	池畑医院皮フ科、晒医院	兵庫県	芦屋柿本クリニック、山村皮フ科、西脇市立 西脇病院、はやし皮フ科クリニック	岡山県	水田皮膚科泌尿器科内科、赤鷲皮膚科形成外科	広島県	能宗クリニック	山口県	太田皮膚科クリニック、えま皮膚科、山口大学医学部附属病院	香川県	渡辺医院、三豊総合病院、はら皮フ科クリニック	徳島県	藤本皮フ科クリニック	愛媛県	愛媛大学医学部付属病院、愛媛県立中央病院	福岡県	ふかまち皮フクリニック、北九州市立八幡病院、産業医科大学病院、医療法人元木皮ふ科クリニック、上野医院	佐賀県	ごとうクリニック、なかふさ皮膚科クリニック	長崎県	岡田アレルギー科・皮フ科医院、松下ひふ科、一ノ瀬皮膚科医院、前田ひふ科アレルギー科、ひろ皮ふ科クリニック、松永皮膚科、田中皮膚泌尿器科医院、吉村皮膚科医院	大分県	田村皮ふ科クリニック、医療法人 瀬口皮膚科	宮崎県	蜂須賀クリニック	熊本県	永田皮膚科医院、佐藤皮膚科医院	鹿児島県	宇宿ひふ科クリニック、あおい皮膚科クリニック、橋口皮膚科、吉井皮膚科、宮内皮ふ科クリニック、わかすぎ皮フ科クリニック
-----	---	-----	------	------	---	-----	---------	-----	-----------------------	-----	---	-----	----------------------	-----	---	-----	----------------------	-----	--------	-----	---------------------	-----	------------------------	-----	----------------------------------	-----	---	------	-------------	-----	---------------------------------------	-----	-----------------------	-----	---------	-----	------------------------------	-----	------------------------	-----	------------	-----	----------------------	-----	--	-----	-----------------------	-----	---	-----	-----------------------	-----	----------	-----	-----------------	------	--

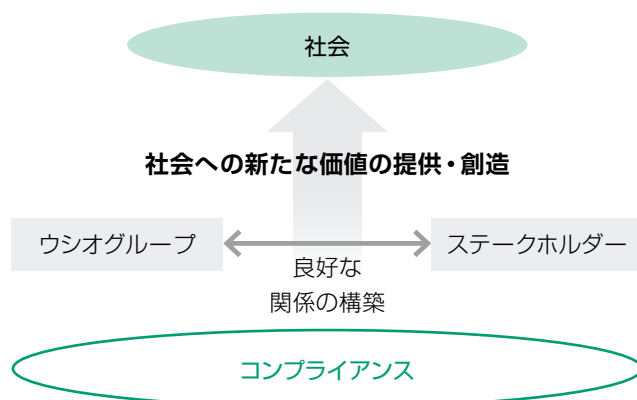
※2012年6月末時点

ウシオのCSR



ウシオの目指すCSR

「コンプライアンス」や「社会貢献」「環境保全活動」などは、企業市民として当然取り組むべき課題であり、全ての活動の土台であるとウシオグループでは考えています。その上で、さまざまなステークホルダーの皆さまと良好な関係を構築し、新たな価値の創造と提供を行なうことにより、進んで社会に貢献する企業でありたいと考え、取り組みを進めています。



用語集

CSR (Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任) 企業が世の中を構成する一員として果たすべき責任。

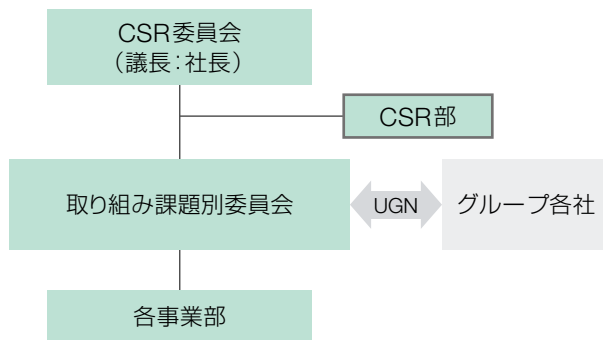
ステークホルダー さまざまな組織が意思決定を行ない活動をするにあたって、そこに関係してくる人たち。一般的には「企業の利害関係者」として説明される。

コンプライアンス 直訳すると「法令遵守」となる。かつては法令を守ることという意味に取られていたが、最近ではこれに加え「社会のルールや良識を守り社会に貢献すること」もコンプライアンスの範囲として捉えられている。

CSR推進体制

ウシオ電機では、社長を議長とした「CSR委員会」を設置し、CSRへの取り組みにかかわる全社的な方針などを決定しています。「CSR委員会」で決められた方針を具現化するために、必要に応じて「CSR委員会」の下部組織として取り組み課題別の委員会を設置し、具体的な取り組みについて議論しています。

CSR推進体制図



国連グローバル・コンパクト10原則の支持

2010年10月、国連が提唱する「人権・労働基準・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト10原則」への支持を表明しました。また、国連グローバル・コンパクトのローカルネットワークである、「国連グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク」にも加盟し、参加企業と協力してサプライチェーンマネジメントにおける提言書の作成に加わるなど、さまざまな分科会活動に積極的に参加しています。



「国連グローバル・コンパクト10原則」とウシオの取り組み

国連グローバル・コンパクト10原則			ウシオの関連取り組み報告ページ
人権	原則 1	企業は、国際的に宣言されている人権の擁護を支持、尊重し、	「私たちの行動指針10」第3項では、すべての人々の基本的人権を尊重し、不当な差別を行わないことを明記するなど、取り組みを進めています。 ⇒P16、P17
	原則 2	自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。	
労働基準	原則 3	企業は、組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、	国際労働機関（ILO）による「労働における基本的原則及び権利」の宣言を尊重し、「私たちの行動指針10」第3項では、良好な労使関係や、職場における差別の撤廃、明るく安全快適な職場環境を作ることをうたっています。 ⇒P16、P17
	原則 4	あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、	
	原則 5	児童労働の実効的な廃止を支持し、	
環境	原則 6	雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。	「私たちの行動指針10」第8項では環境保全に積極的に取り組むことを明記しています。また、「2020年環境ビジョン」を定め、ビジョンの具現化に向けて「第三期環境行動計画」を策定し取り組みを進めています。 ⇒P22、P23
	原則 7	企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、	
	原則 8	環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、	
腐敗防止	原則 9	環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。	「私たちの行動指針10」第6項にて腐敗防止を含む公正な企業活動の推進をうたっています。また「コンプライアンス委員会」の設置や「ウシオヘルプライン（内部通報制度）」を設置するなどして取り組んでいます。 ⇒P15
	原則 10	企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。	

UGN Ushio Green Networkのこと。ウシオグループ各拠点における環境への取り組みや情報共有を目的とした組織。

国連グローバル・コンパクト 1999年、当時の国連事務総長であったコフィー・アナン氏が企業に対して提唱したイニシアチブ。人権・労働基準・環境・腐敗防止に関する10原則の取り組みを遵守し実践するよう呼びかけている。

国際労働機関 1919年にベルサイユ条約によって誕生。全世界において、労働条件を改善し社会正義を実現することを目的としている国際組織。

CSR中期計画

ウシオ電機では2009年より中期的な計画を立ててCSRの推進に取り組んできました。第1フェーズでは、マネジメント層への意識調査や社員へのアンケート、国連グローバルコンパクトの勉強会を活用したNGOや有識者との対話を通じてウシオが取り組むべき課題についての洗い出しを行ってきました。2012年3月期には取り組み課題を整理し「CSR行動計画」として公表し、各事業部への事業計画への反映を行ないました。

現在進行中の第2フェーズでは、取り組むべきCSR課題の掘り下げをさらに進め、各バリューチェーンの活動に落とし込んだ活動を行なっていきます。

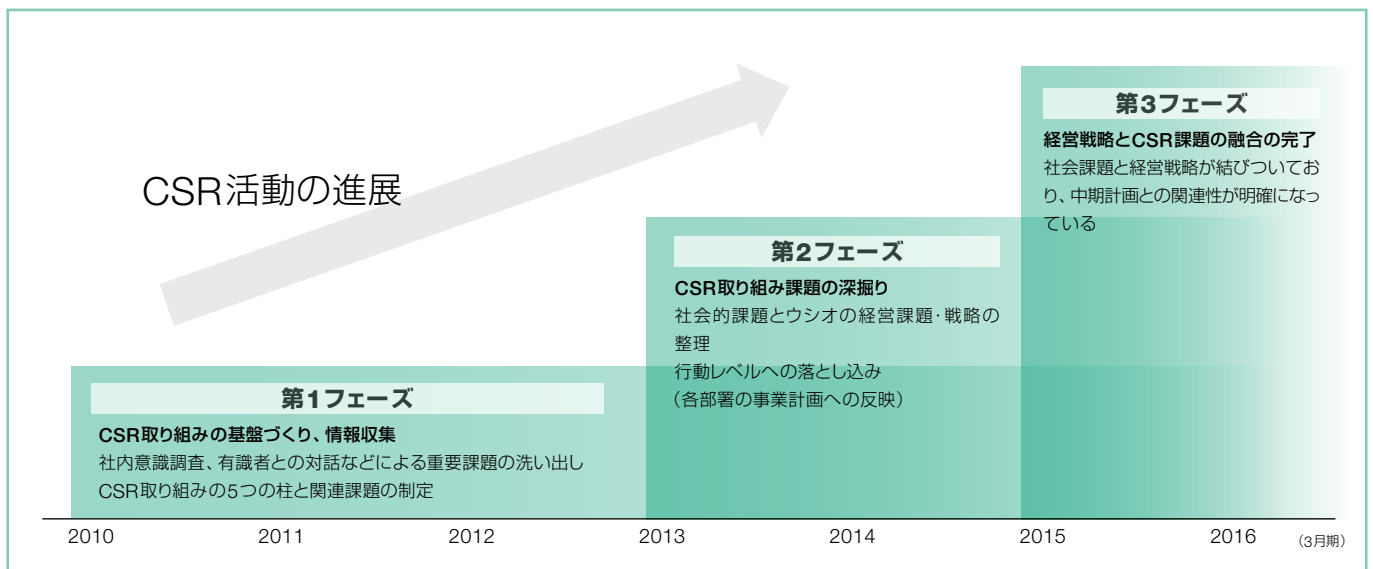
CSR行動計画

ウシオ電機では2012年3月期より、CSRの取り組み強化を目的に「CSR行動計画(方針)」を策定し取り組みを進めています。行動計画(方針)の中ではさまざまな課題を「ガバナンス」「人」「品質」「社会」「環境」に分類して5つの柱とし、それぞれの項目をさらにブレイクダウンした取り組み方針を設けました。2013年3月期は事業の中での推進を強化していくため、行動計画では原則を示し、各事業部・部署の状況に合わせた形で事業計画への落とし込みを図っています。

バリューチェーンを通じたCSRの活動



CSR中期計画 目標とロードマップ



用語集

バリューチェーン アメリカの学者マイケル・ポーター氏が著書「競争優位の戦略」の中で用いた用語。購買物流、製造、出荷、販売・マーケティング、サービスとそれらを支援する人事・労務管理や技術開発など、それぞれのプロセスで作り出した付加価値の連鎖が最終的な製品やサービスの価値を生み出すという考え方。

ISO26000 国際的なSR(組織の社会的責任)の取り組みのガイドラインとして2011年10月に国際標準化機構より発行された。政府や産業界、労働者、消費者、NGOなどの代表者が2000年代前半より議論を行ないながら策定作業を行なった。従来のISOのように認証を必要とする規格ではないことも特徴のひとつ。

CSR行動計画 5つの柱

ガバナンス

グローバルな企業活動において、国際基準まで含めたコンプライアンスの確立や、CSRに関する情報公開・ステークホルダーコミュニケーションに関する取り組みとガバナンス体制の強化・発展

取り組み課題

- 社内浸透
- 内部統制
- グローバルな取り組み
- BCP(事業継続計画)の策定
- 法令遵守・倫理
- 情報セキュリティ構築
- 公正・公平な事業活動
- 財産権の保護

2013年3月期の行動方針

- リスクマネジメントの推進
- 法令遵守の取り組みの推進
- 情報セキュリティの構築
- 知的財産権の保護や戦略的活用
- BCP(事業継続計画)の策定

人

人材の登用と活用において、職場環境、人権、価値観の多様性に配慮した取り組み

取り組み課題

- 人権
- ダイバーシティの推進
- ワークライフバランスの推進
- 安全衛生の取り組み
- 人材

2013年3月期の行動方針

- 3年間先を見据えた人材計画の策定
(将来の施策にマッチした、人材・人員構成・ダイバーシティの推進)
- ワークライフバランスの推進
- 総労働時間の削減
- 安全衛生の取り組みの推進

品質

市場のルールや規範遵守を基本に、顧客・株主・取引先等のソーシャルニーズに対応する取り組み

取り組み課題

- CSR調達
- 品質
- ソーシャルニーズの創造

2013年3月期の行動方針

- 売上計画、利益計画の達成に加え、顧客満足度向上や品質向上のための取り組みの推進
- サプライチェーンの強化(CSR調達・グリーン調達の推進)
- 本業(製品やサービス)を通じた社会的課題の解決へのアプローチ、アジアなどの新興諸国におけるビジネス推進計画の立案

社会

地域社会から国際社会まで広くかかわり、教育・文化・福利・開発など協調、協力の取り組み

取り組み課題

- 社会貢献活動

2013年3月期の行動方針

- 社会貢献活動の推進
(地域社会とのコミュニケーションの実施・本業を通じた世の中への貢献の検討)

環境

企業の環境保全の取り組み。「環境」と「経済」の両立をもとに、生態系に影響をおよぼす地球規模の環境問題を含む

取り組み課題

- 環境

2013年3月期の行動方針

- 第三期環境行動計画の推進
- エネルギーコスト、資源コストの削減を通じた環境への貢献
- 環境関連法規制への対応と、法規制動向を先取りした製品開発・市場創造

内部統制 企業などの組織において、業務を適切に進めるためのルールを作り、ルール通りに業務を進めるプロセス。アメリカで発生した巨額粉飾・不正監査事件を契機に、企業のコンプライアンスが問題となり、世界的に重視されるようになった。

BCP 事業継続計画(Business Continuity Plan)のこと。自然災害などの不測の事態において、事業の継続を図るための方針や計画。想定外の事態を想定内にするための取り組みではなく、想定外の事態に対応するための仕組みづくりが重要。

ソーシャルニーズ 世の中にあるさまざまなニーズの中でも、特に環境や貧困、人権、福祉、健康などといった公共分野や社会的課題にかかわるニーズ。

ガバナンス

コーポレート・ガバナンス／
コンプライアンス

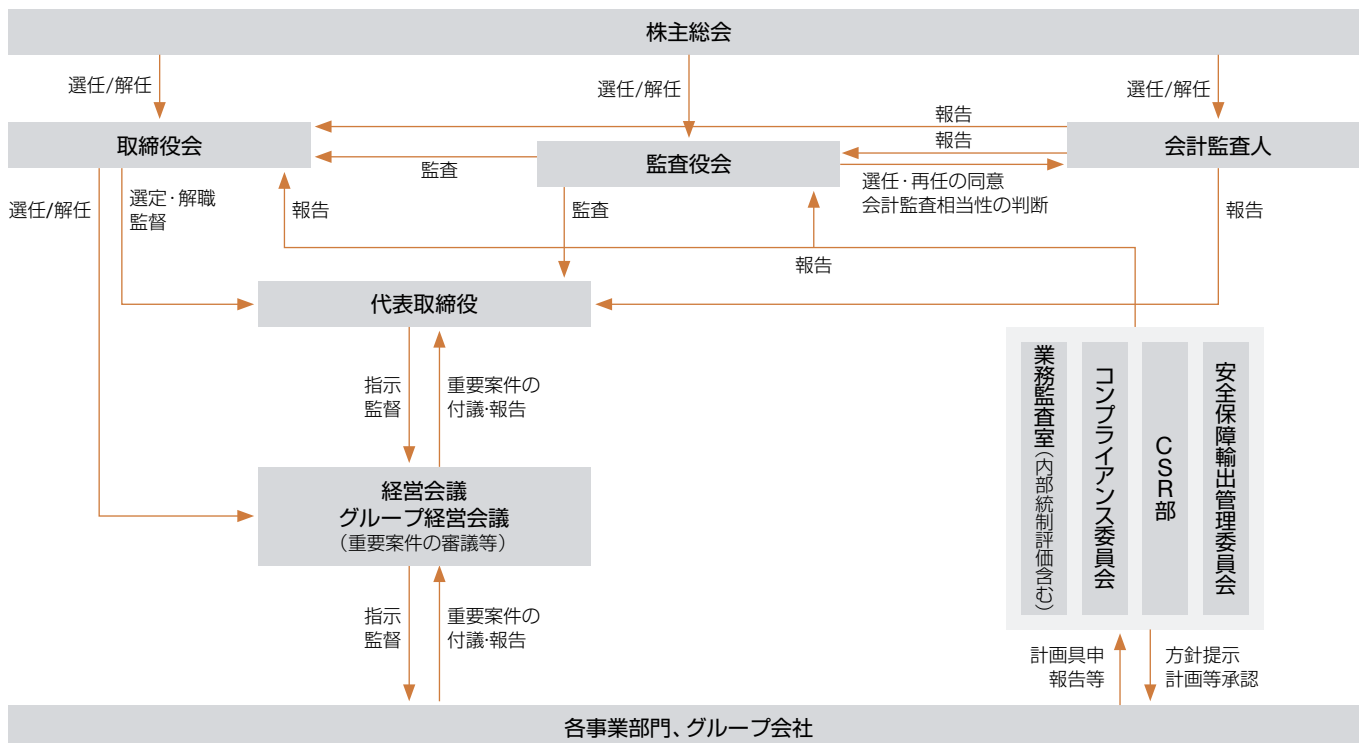
ウシオグループの基本方針は、企業経営における透明性と効率性を確保すること、および、全てのステークホルダーの皆さまの期待に応じて企業価値を増大させていくことにあります。また、そのための法令・社会的規範・企業倫理の遵守およびJ-SOXを含めた内部統制の体制確立・維持を経営の最重要課題のひとつとして位置づけ、これらを推進しています。

コーポレート・ガバナンス

ウシオ電機は監査役会制度を採用しています。経営管理組織については、経営方針等の重要課題に関する意思決定および業務執行の監督機関として「取締役会」、業務執行機関として「代表取締役」、監査機関として「監査役会」を設置しています。さらに、ウシ

オ電機およびグループ全体の経営戦略や中長期の経営方針等を審議するため「経営会議」「グループ経営会議」を設け、取締役会の意思決定を支援するとともに、代表取締役の業務執行の強化や迅速性を高めるため「事業部制度」や「執行役員制度」を導入しています。

ウシオ電機内部統制図



用語集

コーポレート・ガバナンス 企業統治の意味で、企業の経営を監視する仕組みのこと。監視するといっても「経営者がなにか不都合なことを行っていないか」を監視するのではなく、経営者に目標を与え業績評価するなど、「経営者が株主のために企業経営を行っているか監視する仕組み」である。

Web <http://www.ushio.co.jp/governance> (コーポレート・ガバナンス)

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/compliance> (コンプライアンス)

取締役会および社外取締役の選任

ウシオ電機の取締役会は、社内取締役10名と独立性の高い社外取締役1名の計11名で構成されています。事業内容に精通した社内取締役による迅速な意思決定が図られる一方、経営から独立した社外取締役を選任することにより、経営監視機能を強化し、経営の客観性を維持しています。なお、社外取締役1名は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員（一般株主の保護を図るため、一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外役員）として届出しています。

監査役監査

ウシオ電機の「監査役会」は、6名の監査役のうち3名が独立した立場の社外監査役です。それぞれの社外監査役は、財務・会計に関する知見を含め専門の監査分野を持ち、客観性および中立性を持つ監査を実施しています。「取締役会」は、「監査役会」に対して法定の事項に加え、当社グループ全体に著しい影響をおよぼすおそれのある事項、毎月の経営状況として重要な事項、内部監査の実施状況等を適宜報告しています。「会計監査人」は「監査役会」に年間の監査計画書を提出して具体的な監査方針を説明するとともに、四半期・期末決算における四半期レビューや会計監査の際には監査役に対してレビュー・監査結果の要旨を報告し、「監査役会」との間で定期的な意見交換を実施しています。

業務監査の強化

企業不祥事の未然防止および会社法・金融商品取引法の制定に伴い、内部監査の重要性が増してきています。内部監査には法令・規程等の準拠性監査、内部統制の整備・運用の評価のみならず、コンサルティング機能も求められるようになってきました。ウシオ電機では、コンプライアンス監査や安全保障輸出管理の監査をはじめとするさまざまな監査を実施しており、監査の品質や監査の有効性を高めるために、監査役とは常に連携を図っています。業務監査では経営上のリスク最小化と会社が目指す方向性の観点から監査テーマ、監査項目を抽出し、組織体の目標達成に役立つ監査になるよう留意しています。また、業務監査による指摘・提言事項は、改善がなされるまで定期的にフォローを続けています。今後も、業務および現場の実態をよく観察し、経営の合理化、業務の改善、資産の保全、経営上のリスク最小化および体質改善につながる監査・提言を行なっていきます。

コンプライアンス

コンプライアンス違反は企業や行政組織の社会的信用を根底か

ら揺るがし、損害賠償請求や売上急減などで多大な損失を被るリスクがあることは言うまでもありません。ウシオ電機では「コンプライアンス委員会」を設置し、潜在するリスクも含めコンプライアンス懸案事項には、できるだけ早い時点で対処することなどを全社的に推し進めています。

ウシオヘルプライン

ウシオグループでは「ウシオヘルプライン」制度を2006年10月から開設しています。これは、国内におけるグループの全社員が職場における法令違反や社内規則違反、企業倫理違反などの行為について、直接相談や通報ができる外部窓口であり、不正行為などの早期発見と是正、相談者や通報者の保護を目的に運用されています。



「ウシオヘルプライン」ポスター

情報セキュリティ

事業活動にはITの利用が不可欠となっている一方で、機密情報や個人情報の漏洩、コンピュータウィルス感染、不正アクセス行為やシステムダウンによる事業の中断など、さまざまなセキュリティ事故が世の中で相次いでいます。ウシオ電機が事業を推進していくために保有している情報は、お客さまやお取引先さまに関する重要なものであることを認識し、情報の取り扱いに必要なルールの制定・見直しを行ない、機密情報を適切に保護することを義務付けて徹底しています。

情報セキュリティの取り組みは、「ルールを決める」「ルールを守る仕組みを作る」「意識向上」の三位一体となった取り組みが必要です。添付ファイルの自動暗号化機能の設定や誤送信防止の仕組みの設定、プログラム資産管理などの仕組みやルールを整え、今後は社員一人ひとりの自覚が必要となってきます。そのため、2013年3月期にはe-ラーニングの活用やさまざまな媒体を通じた意識向上の取り組みや、J-SOX監査と連携した情報セキュリティ監査を行なっていきます。

公正・公平な取引に向けて

ウシオグループでは、「私たちの行動指針10」の中で、取引を行なう場合には常に相手の立場と権利を尊重し、公正・公平な姿勢をもってあたり、優越的地位を利用して、不当な条件を押しつけないことを約束しています。また、腐敗防止に努め、社会通念に照らして適正な取引を行なっていくことを約束しています。

社員とともに

ウシオグループでは、企業の社会的責任の取り組みを通じて、社員がイキイキとやり甲斐を持って働くことのできる企業づくりを目指しています。企業理念の最初の項目に「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させること」とあることにも表されている通り、この想いは、創業時から変わっていません。

人権の尊重

ウシオグループでは国際労働機関（ILO）による「労働における基本原則及び権利」を尊重しています。また、2010年10月には国連が提唱する「人権・労働基準・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト10原則」への支持を表明し、10原則を遵守するべく取り組みを推進しています。2012年3月期からはCSR調達や紛争鉱物の使用状況の調査を開始しました。今後、中期的な計画を立てて取り組みを推進し、お取引先さまと一体となってレベルの向上を目指していきます。

ダイバーシティ

グローバルな人材の活用

ウシオグループの所在地別売上高を見ると、海外での売上高は70%を超える規模になっています。海外でビジネスを推進していくためには、現地に溶け込んだコミュニケーションを行なうことにより、何が求められているのかを理解し、行動できる人材が必要

となってきます。そのため、留学制度の制定や海外留学生の採用をはじめ海外グループ会社からの親会社への出向やグループ会社間における人材の交流を通して、グローバルな人材の育成・活用を行なっています。

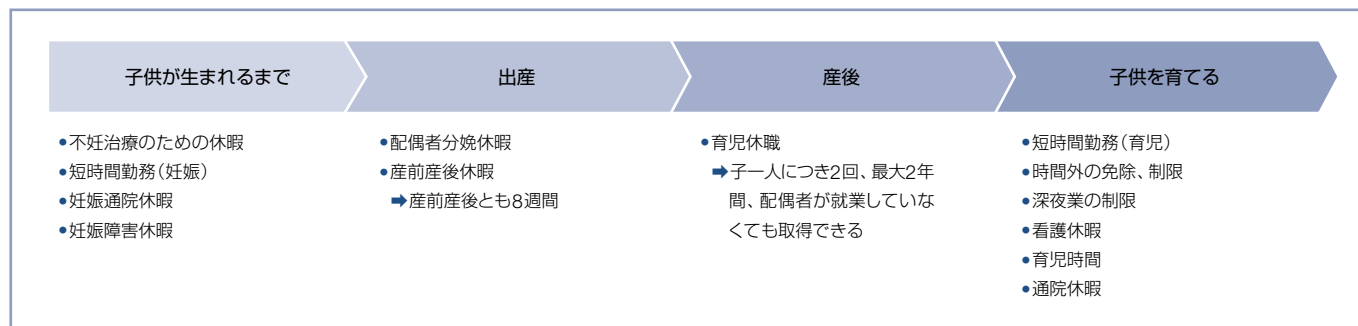


海外現地法人社員とお客さまが来日

働く女性の支援

ウシオ電機では、女性の大きな退職理由のひとつである「出産・子育て」と「仕事」の両立の支援にも力を入れており、女性が働きやすい会社づくりを目指しています。先進国のビジネスが成熟化している中で新しいビジネスを生み出すには、新しい力が必要と考え、性別にとらわれない人材の登用を図っており、近年では営業職・技術職における女性社員比率が2007年に比較し、2倍以上に増加しました。

ウシオ電機の両立支援制度（仕事と子育て）



用語集

紛争鉱物 コンゴ民主共和国周辺で採掘される、金・錫・タンタル・タングステンの製品の使用について、2010年に成立した米国の金融改革法案内で米国証券取引委員会（SEC）登録企業への報告義務を盛り込んだもの。コンゴにおける武装勢力の人権侵害の問題は深刻であり、こうした鉱物が武装勢力の資金源となっているとの懸念があり、情報の開示が求められている。

ダイバーシティ 多様性の意味で、人種や性別、年齢、信仰にかかわらず多様な人材が最大限の能力を発揮できるような仕組みづくりが求められている。

ワークライフバランス

両立支援制度

ウシオ電機では、働く男女ともに安心して仕事と家庭を両立できるような職場環境の整備に努めており、育児休業をはじめ、法定水準を上回る支援制度を整備しています。2009年3月には仕事と子育ての両立支援制度や母性保護、上司の対応方法など、制度を利用する社員および上司の心得を記載した「両立支援ハンドブック」を発行しました。2011年7月には、短時間勤務制度を改正し、期間の延長(子が6歳まで)および、就業時間を選択できるようにしました。また、男性の育児休業取得者の体験談を社内のイントラネットで公開するなど、男女問わず両立支援のための環境の整備を行なっています。その結果、2012年6月には、3期目の「次世代育成支援対策推進法」認定マーク「くるみん」を取得しました。



育児休暇制度利用者推移

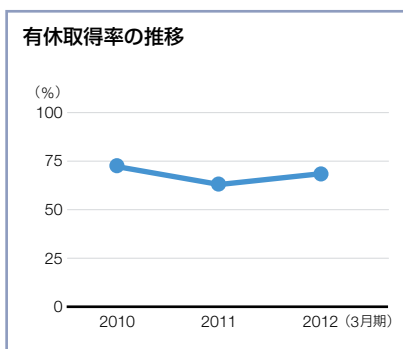
	2010	2011	2012
男性(人)	0	2	2
女性(人)	26	29	27
合計(人)	26	31	29

(3月期)

有給休暇の取得や定時退社日の制定

ウシオ電機はワークライフバランスを重視しており、家族・友人と過ごす時間や自己啓発の時間を確保し、メリハリある職場環境の構築を目的とし、定時退社日の制定や計画年次有給休暇の取得を

推進しています。休暇を取得しリフレッシュすることで、心身の健康を保ち、パフォーマンスの向上につながると考えています。



安全衛生

社員の安全衛生

ウシオ電機では社員が安心して働ける職場づくりを目指し、労働環境における安全衛生の取り組みにも力を入れています。健康診断有所見者やメタボ者への保健指導、長時間労働者への産業医面談など社員の健康を守るためのさまざまな仕組みを設けています。

人材の育成

人材育成教育研修や現場に根ざした人材育成

企業理念に描かれている「会社の繁栄と社員一人ひとりの人生の充実を一致させる」ことの実現に向け、さまざまな教育制度を設け自立した人材の育成を目指しています。

また、各部門や職種別に必要とされるスキルの見直しを行ない、体系化し、人材の育成や評価に役立てる仕組みを拠点別に行なっています。職種を問わず、常に問題意識を持ち、過去にとらわれない発想で、独自性のある提案と行動ができる人材の育成が求められています。

自己啓発援助

通信教育：語学、技術系基礎講座や資格取得のための講座に加え、マネジメントからパソコンスキルまで幅広くラインアップしています(2012年3月期は302講座)。修了すると奨励金が支給されるなど、社員の学習意欲に応えています。2012年3月期はのべ376講座の受講がありました。

TOEIC試験：社員が自己の英語レベルを把握し、レベルアップを図ることを目的として、希望者にTOEIC試験を実施し、受験料の一部を会社が援助しています。2012年3月期はのべ93名が受験しました。

階層別研修

中堅社員研修：自己変革が求められる入社5年目の中堅社員が対象。「正す」と「励ます」OJT指導スキルの習得と、モチベーションコントロールを身につけることを目的としています。

新任ライン長研修：新任ライン長(主に課長)が対象。研修で得た気付きをもとに、組織目標を達成するために、(課やチームを)管理統率・運営する上で障害となっている課題を解決することを目的としています。

部長研修：新任部長・次長が対象。従来より、組織力向上のための人間関係力の重要性について再確認することを目的として研修を実施してきました。現在は、「組織管理の課題に加え、所属事業の将来を見据えた中長期的な戦略を実現するために生じるさまざまな課題を解決する」、その一助となるような研修プログラムに内容を見直しています。

ワークライフバランス 「仕事と生活の調和」の意味で、働きながら私生活も充実させられるように職場や社会環境を整えること。単に残業時間を減らすということではなく、仕事と私生活の双方の質を高めることで相乗効果が得られるような取り組みが求められている。

くるみん 「くるみん認定マーク」などと呼ばれ、従業員の子育て支援のための行動計画を策定・実施し、一定の基準を満たした企業が厚生労働大臣から認定を受け、そのマークを使用することができる。

お客さま・ お取引先さまとの かかわり

ウシオグループではお客さまのニーズを的確に捉え、お取引先さまと一体となって製品の開発・品質の向上を進めることで、「当たり前品質」の上を行く「魅力的品質」を備えた製品・サービス、新たな価値を提供していきます。

品質方針

ウシオ電機では、全社統一の品質方針を制定し、品質の向上に力を入れています。

UPS (USHIO Production System)

ウシオ電機 播磨事業所では、2012年3月期から独自の新しい生産方式の確立を目指し、UPSと呼ばれる取り組みを開始しました。事業環境の激しい変化の中で、どのような環境にあっても高品質な製品を効率よく提供するためには、これまでのやり方を踏襲し決められた枠の中で改善を積み重ねるのではなく、従来から培って来た改善活動(UPS、TPM、TQC)を統合し、多角的視点から改善を進めています。UPS活動は「社員一人ひとりの自発性や熱意をもって、創意工夫により仕事の欠陥をなくしていく」ZD(ゼロ・デフェクト)活動にあり、自工程完結型ものづくり・不良低減・バラツキを押さえる取り組みを推進する“製造技術グループ”、形骸化したルールの見直しや有効性を重視したルールづくりを考える“品質システム改善グループ”、新しい時代に求められるスキルや知識を体系化し教育を実施する“教育・啓蒙グループ”の3つの柱から構成される活動であり、2013年3月期は成果が実感できる取り組みを進めています。

基本理念

ウシオは製品の品質最優先と認識し、世界のマーケットへ高品質で、安全で信頼性の高い経済的な製品とサービスをタイムリーに提供し、顧客の要求に応えます。

行動指針

1. お客様第一、品質第一に徹して、最新技術で、魅力ある商品を開発して、顧客の要求と信頼に応えます。
2. 顧客のニーズを満たすため、品質マネジメントシステムを全社へ展開し、その有効性の継続的な改善に取り組み、さらなる品質の向上に努めます。
3. 顧客との情報共有化を図り、コスト改善、新製品開発、新規市場開発を行い、世界マーケットへ高品質で、安全で信頼性の高い経済的な製品をタイムリーに提供します。

2010年4月1日
ウシオ電機株式会社
代表取締役社長
菅田 史朗

用語集

スーパーグリーン製品の評価項目 スーパーグリーン製品認定の基準は、次の3つの要件で構成されています。

- ①環境配慮型製品基準で80点以上(環境配慮型製品アセスメント基準に基づく)
- ②環境ファクター1.5以上(2001年3月期を基準年とし、従来製品との比較で計算)
- ③透明性の確保

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/customer> (お客さまとともに)

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/supplier> (お取引先さまとともに)

製品を通じた貢献

ウシオ電機にとって、本業である製品を通じた世の中への貢献は数ある取り組みの中でも重要なことのひとつです。ウシオ電機ではこれまで「製品性能のイノベーションにより環境に貢献する」ことを目的に、製品開発段階より環境アセスメントを実施し、特に環境性能の優れた製品についてはスーパーグリーン製品として認定する仕組みを整えてきました。2012年3月期までに7製品がスーパーグリーン製品として認定されています。

また、医療や健康、環境・食糧・エネルギーなど、今後、地球規模で解決していかなければならない課題に貢献できる製品の開発を進めています。

スーパーグリーン製品の開発

スーパーグリーン製品に認定されるためには、「省エネ」「長期使用」「3R設計」「使用材料」「アプリケーション」などで優れた環境配慮がなされたトップランナー製品であることはもちろんですが、2010年3月期に世の中の動向に合わせて認定基準の見直しを行ない、新たにウシオ環境ファクターを使って数値による基準の明確化を図りました。2011年3月現在で、グループで5件のスーパーグリーン製品が認定され、2012年3月期中に新たに2製品が認定されました。



スーパーグリーン製品マーク

医療

(治療・診断・検査・衛生)

クオリティ・オブ・ライフ(QOL:充実した質の高い生活)の観点から注目されている光医療。ウシオは、最先端の光技術を活かした、新しい治療・診断・検査・衛生機器で貢献しています。



紫外線皮膚治療器



体内可視化装置

農業

(育成・植生)

私たちの食を支え、安心・安全・安定供給が求められる農業。人工光による育成環境の再現・最適化は、地球規模の食料問題解決に向けた取り組みのひとつです。



植物育成用照明システム



植物育成・制御用光源ユニット

エネルギー

太陽電池をはじめとする、新エネルギー技術開発に欠かせない光。ウシオは、低炭素社会を実現するインフラ整備や開発に取り組んでいます。



太陽電池評価用ソーラシミュレータ



加速試験装置

セキュリティ

(薬物・監視・情報セキュリティ)

有害薬物や農薬の検出、夜間警備・保守・監視用照明、パソコンなどからの情報漏えいの防止でも、ウシオの光が活躍しています。



薬物検出システム用バイオチップ

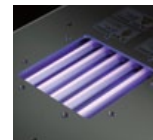


赤外線LED投光器

自然環境

(水・大気)

河川や地下水、上下水道などの水質改善、排気ガスや煤煙による大気汚染の防止など、自然環境の保全に向けた光製品の開発に取り組んでいます。



水殺菌用水銀レスUVランプ



NOx/SOx分解用VUV光源ユニット

プラスト水殺菌処理で活躍するウシオの光(USHIO EUROPE B.V.)

海洋における生態系への影響として、プラスト水の問題があります。この問題を解決するためには水を殺菌処理する必要があり、そのひとつが光による方法です。この手法は薬品汚染もなく、コンパクトで取り扱いが簡単であるというメリットがあり注目されています。光を使った水処理は、水が関連するどの分野においても重要な技術です。ウシオヨーロッパでは現在プラスト水向けにUVランプ・電源をはじめ、必要に応じてコントロール部分の供給もしていますが、今後は工業用排水の処理などさまざまな用途にも展開し、環境問題を解決する光として市場に提供していきます。

環境ファクター 新しく開発した製品と、過去の製品の「環境効率」を比較し、その改善度を数値化したもの。数値が大きいほど改善度が高いことを表します。

環境ファクターは、『対象製品の環境効率』／『基準年度の同種製品の環境効率』で算出しています。また、ウシオ電機では製品の環境効率を『製品の価値(性能)』／『環境負荷量』で計算しています。製品の価値とは(出力×寿命)で算出し、環境負荷量は $\sqrt{[(入力)^2 + (3R量)^2 + (化学物質含有量)^2]}$ で計算します。

*1 出力: ランプであれば必要波長領域における光出力、照度など

*2 入力: 製品使用時におけるエネルギー使用量

*3 3R量: 製品の大きさ・重量(使用している資源の量)

*4 化学物質含有量: 環境リスク物質の含有量

CSR調達・紛争鉱物調査の実施

良い製品や良いサービスを通じて世の中に貢献していくためには、お取引先の皆さまの協力が必要不可欠です。CSR調達を行なうことにより、ウシオ、お取引先さま、社会のそれぞれが共存し続ける関係を構築していくことを目指しています。2012年3月期にはお取引先さまへのCSR調査を実施し、結果のフィードバックと取り組みの向上のお願いをさせていただきました。2013年3月期にはさらなる取り組みの向上を目指して、お取引先さまと一体となった活動ができるように検討を進めています。また、デューデリジェンスの取り組みの一環として、部材における紛争鉱物の使用状況の調査も実施しています。

御殿場事業所における取り組み

御殿場事業所では、調達業務に関わる社員全員が下請法に関わるセミナーを受講し、下請法に対する理解を深めるようにしています。また、「お取引先さまと一緒に考え、行動する」ことを重視し、納期遅延や品質に関わるトラブルが発生した際にも、ともに原因を考え対策を練る取り組みを行なっています。

この結果、請け納期遅れ率改善および不適合率の低減について目標を決めて取り組みを進めています。そのほか、お取引先さまと一体となった活動を行なっていくため、「エコアクション21(EA21)」の取得支援活動や、仕入先懇談会でグリーン調達方針の説明を行なうなど、お互いの意識の共有を図り、共存共栄の関係を構築するための取り組みを行なっています。

播磨事業所における取り組み

播磨事業所では、部品材料の海外からの調達や海外製造拠点への供給など、海外との取引の増加に伴い、貿易業務を資材部から海外支援室に集約し、安全保障やEAR(米国商務省輸出管理規則)など多様化する海外取引に関する法規制を専門的に習得し、適切に対応できるようにしました。

また、調達にかかわる者に対し「下請法」「環境規制」ならびに「外為法」などについての教育プログラムを実施し、法規制が確実に遵守できるよう進めています。

さらに、海外拠点のお客さまからの環境についてのご要求やお問い合わせに対し、迅速に適切に対応が図れるよう、播磨事業所と海外拠点で共同チームを組織し、環境対応のレベル向上を行なっています。

お取引先さまには、調達方針やグリーン調達基準JAMP/AISフォーマットの説明会の開催を通じて、ウシオ電機の活動内容をご理解いただく事で、一層の関係強化を図っていきます。



グリーン調達基準改訂説明会

用語集

デューデリジェンス もともとは、企業が投資やM&Aを行なう際の対象企業や不動産・金融商品などについての調査活動全般を指す金融に関する用語。2008年に発表された人権問題にかかわる国連の取り組みの報告書「ラギーレポート」の中で、「企業が人権に関して責任を果たす際に必要になる」取り組みとしてデューデリジェンスが提唱された。国際的なCSRの取り組みガイドラインであるISO26000の中でも、組織が取り組むべき項目として盛り込まれている。

JAMP アーティクルマネジメント推進協議会(Joint Article Management、Promotion-consortium)のこと。サプライチェーン全体にわたる化学物質の管理の強化の課題に産業界全体で対処するために2006年に有志企業によって設立された。

社会

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/contribution> (地域社会とともに)

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/society> (社会貢献活動)

社会とのかかわり

国際社会の一員として、それぞれの地域社会の発展に貢献できる取り組みを推進しています。

大学で講演・講義を実施

環境構想に関する講演

(CHRISTIE DIGITAL SYSTEMS CANADA INC.)

CDSカナダは、オンタリオ州ウォータールー市にあるウィルフレッドローリエ大学で、2009年より環境構想に関する講演を行なっています。ウィルフレッドローリエ大学は、卓越した商学ならびに経済学プログラムがあることで知られており、サステナビリティ実施を教育プログラムと統合することで、「教育の質」におけるリーダーシップの役割を果たしてきました。2011年には、ウィルフレッドローリエ大学のMBAならびにBBAを専攻中の生徒を招き、あらためて講演会・設備見学ツアーを実施したほか、地元のビジネス業界のために、同様のプレゼンテーションをCommunitech Hubでも行ないました。

光技術に関わる講義の実施(ウシオ電機)

ウシオが参画している「先端レーザー科学教育研究コンソーシアム(CORAL)」の活動の一環として、毎年東京大学で光技術に関する講義を行なっています。2012年3月期で4回目となり、6月に行なわれた授業では「光の発生方法と光化学反応」の講義や「UV光の分光法と光化学反応」をテーマに体験実習を行ないました。講義や実習には、意欲的に光の研究をしている多数の学生が参加。ウシオの社会貢献活動の一環として、次世代の光技術を支える若者たちの育成の一翼を担っています。

東日本大震災の支援活動

地域での共同支援活動(USHIO PHILIPPINES, INC.)

ウシオフィリピンが拠点とするFCIE(First Cavite Industrial Estate)工業団地では理事会が中心となって、「がんばろう日本 We

Support Japan」と書かれた特製のワッペンを販売し、売り上げの50%を日本に贈る活動を実施しました。ウシオフィリピンでは全従業員がこの活動に参加しています。

復興支援物産展(ウシオ電機)

2012年3月、ウシオ電機本社において、同じオフィスビルに入居している企業と合同で「東日本大震災 東北支援地産マルシェ」を開催しました。会場内で集められた寄付金は、公益社団法人日本フィランソロピー協会を通じて、被災地で救援・支援活動をしているNPO団体に寄付されました。

また、7月に播磨事業所・御殿場事業所で開催されたウシオフェスティバルでは、震災で被害にあった東北地方の復興支援として、東北物産展を開催しました。御殿場事業所において集まった寄付金はウシオフェスティバル実行委員より日本赤十字社へ贈られました。

公益財団法人ウシオ財団

人材育成、学術・文化の発展に寄与することを目的として、1994年にウシオ電機創立30周年記念事業として設立された「ウシオ育英財団」は、2011年4月1日に公益財団法人として内閣府に認定され、新しく「ウシオ財団」としてスタートしました。主な事業は奨学金支給により修学を助成することで、次代の世界を担う人材の育成に寄与し、諸外国との交流と相互理解を増進することです。2012年3月期は大学院生(留学生含む)49名、高等専門学校専攻科生16名に奨学金を支給しました。これまでに373名の奨学生が卒業しています。



環境への取り組み

ウシオグループでは、サステナブルな地球環境の実現に向けて、2020年にあるべき姿を描き本業を通じた取り組みの強化を行なっています。

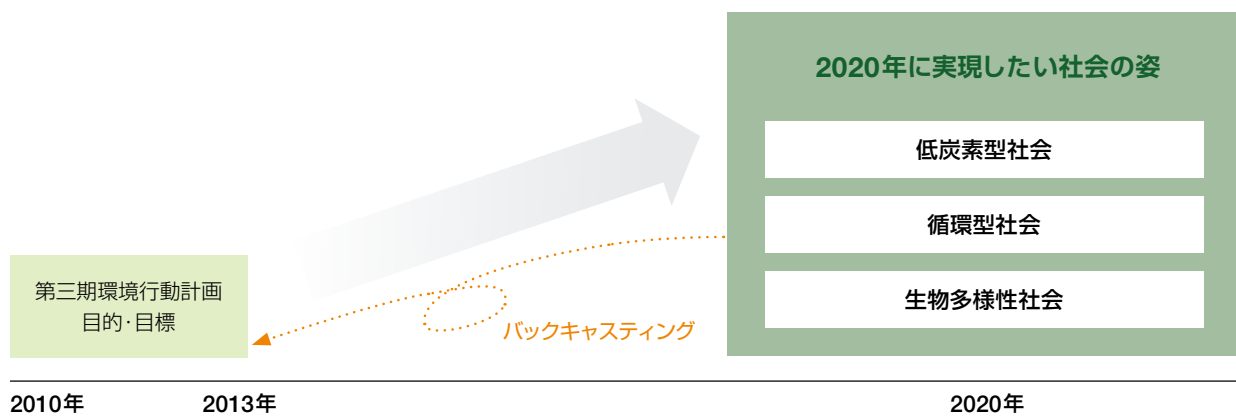
2020年環境ビジョン

ウシオグループでは、「低炭素型社会」「循環型社会」「生物多様性社会」の3つの社会を2020年には実現するために、事業を通じて貢献できる企業になりたいとの想いで「2020年環境ビジョン」

を策定しています。2010年からスタートした「第三期環境行動計画」では、2020年にあるべき姿からバックキャストを行なうことで、具体的な行動目標への落とし込みを行なっています。

2020年環境ビジョン

光のイノベーションを通じ「低炭素社会」づくり「資源の節約」「生物多様性の保全」に貢献します。



用語集

低炭素型社会 地球温暖化を防止するため、CO₂の排出量を少なくできる社会のこと。

循環型社会 限りある資源を大切に活用し、再利用を推進するなど持続可能な形で循環を進める社会。

生物多様性社会 遺伝子・生物種・生態系の3つの多様性が守られ多様な生物が存在している社会。

バックキャスト 将来にあるべき姿から、現在を振り返り目標を定める手法。

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/environmental> (環境経営)

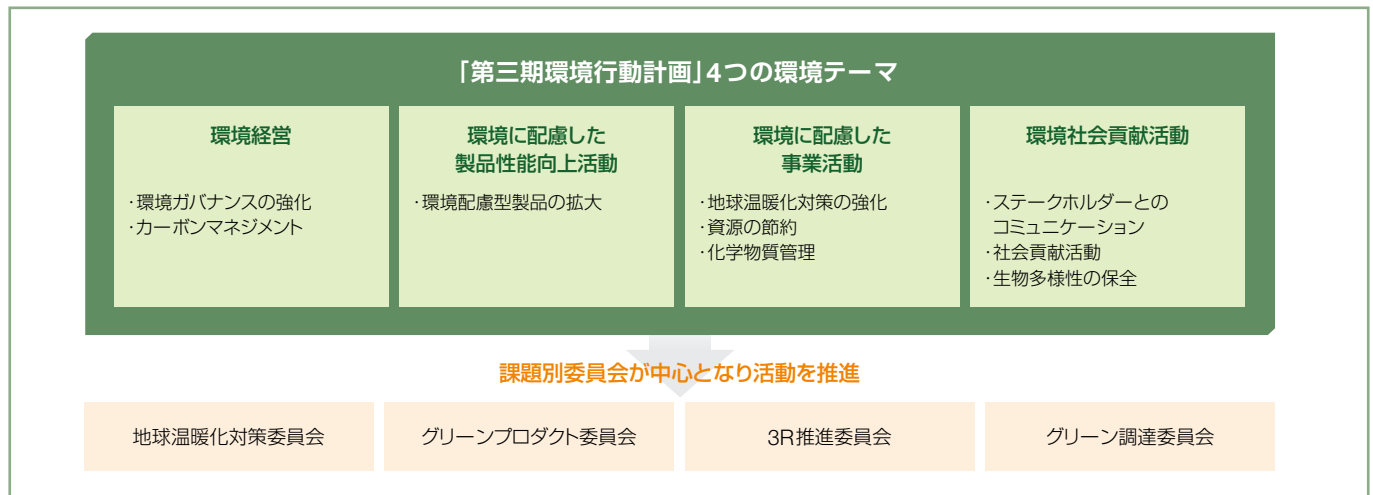
Web <http://www.ushio.co.jp/jp/energy> (地球温暖化防止への取り組み)

第三期環境行動計画

「第三期環境行動計画」では、「環境経営」「環境に配慮した製品性能向上活動」「環境に配慮した事業活動」「環境社会貢献活動」の4つの環境テーマを設け、さらに17の具体的な取り組み項目と目標を設定し、取り組み項目ごとに「地球温暖化対策委員会」「グリー

ンプロダクト委員会」「3R推進委員会」「グリーン調達委員会」の4つの課題別委員会を設け、取り組みを進めています。取り組みの詳細、2012年3月期の活動結果につきましては、ホームページをご参照ください。

Web <http://www.ushio.co.jp/jp/csr/eco/manage/plan.html>



エネルギー起源のCO₂削減の取り組み

2012年3月期は基準値比2%削減の目標に対して、8.4%の増加となりました。昨年に引き続き事業の拡大に伴う生産の増加が要因となっています。特にアジア拠点での生産が増えており目標に対してどの拠点においても増加となりました。エネルギーはコストであるとの考えに立って取り組みを行なってきましたが、生産が増加する中、排出するCO₂を削減していくためにも、新たな視

点での取り組みが必要となってきています。今後、新エネルギーの活用や、サプライチェーンの排出するCO₂の管理、製品によるCO₂排出量の削減目標の設定も検討課題であると認識し、総合力で地球温暖化防止に貢献できるような取り組みを行っていきます。一方で、各拠点における省エネの取り組みの成果や販売製品構成の変化もあり、売上高原単位では1.5%の改善が見られました。

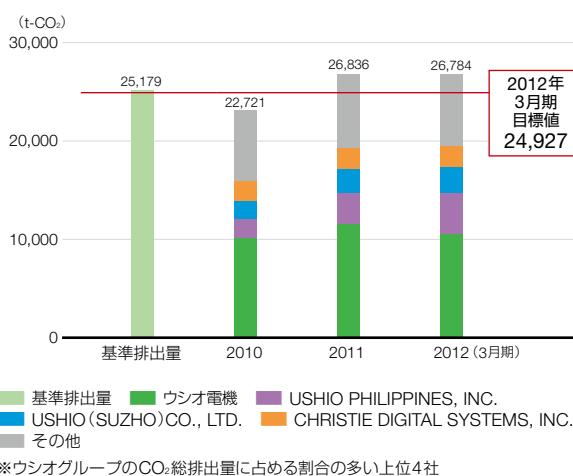
太陽光発電設備の導入

ウシオ電機の御殿場事業所では、2012年1月より太陽光発電システムを導入しました。この太陽光発電は容量100kWh、年間で10万kWhの発電が可能です。御殿場事業所では、今まで環境活動の一環として電力監視システムなどを導入し、使用電力の削減に取り組んできましたが、太陽光発電設備の導入により従来の電力管理と分析による節電施策や、日々の節電の取り組みとの相乗効果により、今後の電力削減にも期待が持てます。晴れた日の昼間は60kWh前後の電力を賅っています。



太陽光発電

グループCO₂排出量推移と割合推移



CO₂換算係数 電気の供給1kWh当たりどれだけのCO₂を排出しているかを示す数値であり、ウシオグループでは各拠点で使用している電力会社の発表数値などを使用している。

事業概況

3月31日終了年度

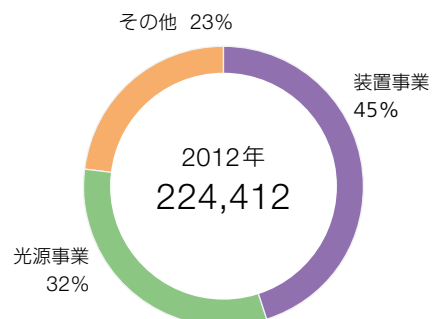
売上高構成比 (百万円)



営業利益構成比 (百万円)



資産構成比 (百万円)



装置事業



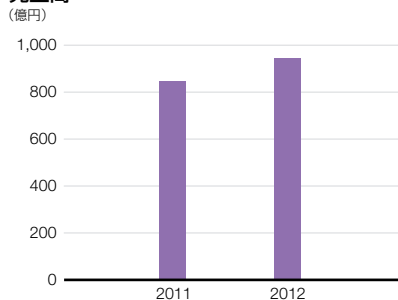
映像装置

- ・ シネマ用デジタルプロジェクタ(DCP)
- ・ ノンシネマ用デジタルプロジェクタ (コントロールルーム、シミュレータ、デジタルサイネージ、バーチャリアリティシステム)など

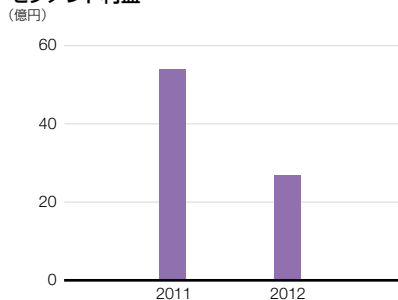
光学装置

- ・ 半導体、FPD、電子部品製造用各種光学装置 (露光装置、光洗浄ユニット、光硬化装置など)
- ・ 紫外線皮膚治療器など医療機器
- ・ 次世代半導体リソグラフィ用EUV光源

売上高



セグメント利益



光源事業



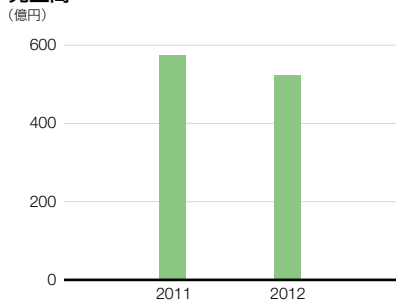
放電ランプ

- ・ 半導体、FPD、電子部品製造装置用UVランプ
- ・ シネマプロジェクタ用、データプロジェクタ用、OA機器用、照明用など各種光学装置用ランプおよび産業用LED

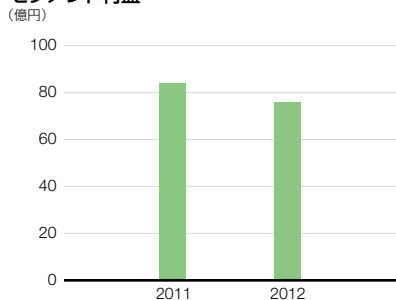
ハロゲンランプ

- ・ OA機器用
- ・ 照明用 (商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明等)
- ・ ハロゲンヒータ

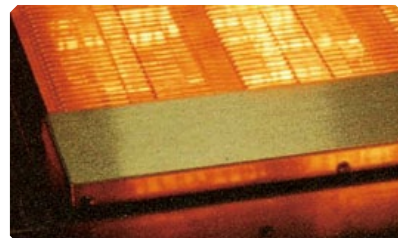
売上高



セグメント利益



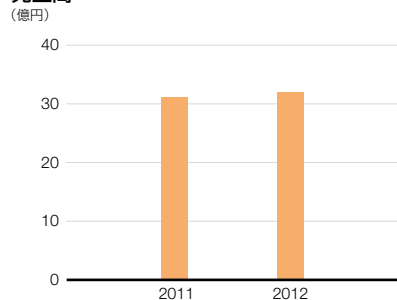
その他



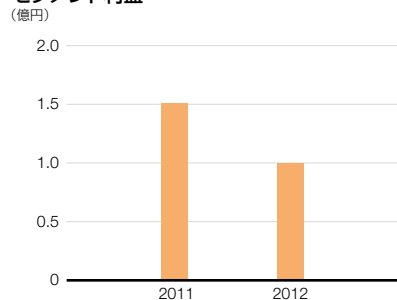
産業機械・その他

- ・ プラスチック成形用途、周辺機械
- ・ 産業機械、システム
- ・ その他

売上高



セグメント利益



第三者意見

今期に入り、ウシオのCSRは第1フェーズから第2フェーズへと進展した。ここで重要なことは、第1フェーズの3年間で見えてきた課題は何かであり、そして第2フェーズにおいて具体的に「何に」「どのように」取り組んでいくかである。言い換えるならば、ウシオのCSRにかかわる重要課題(マテリアリティ)は何か、そして今後ウシオの経営活動にいかにしてCSRを組み込むかということに他ならない。その意味では、CSR行動計画の5つの柱に沿って今期の行動方針が示されており(p13)、これらは担当者レベルにおいて主要ステイクホルダーとの対話を通して落とし込まれたものと聞いている。ここから見えてくる次なる大きな課題を2つ指摘しておきたい。

第1に、2012年5月には中期ビジョンが策定されているが、これらの中期ビジョンとそれに関連するCSRの課題がどのように結び付いているのかについては、必ずしも明確に示されていない点である。CSRを経営活動に組み込むということは、こうした経営計画と密接にかかわるはずであり、それを社内・社外に示すことの意味は大きい。第2に、これは昨年指摘したが、これらの大枠での行動指針にとどまらず、トップ・ミドル・現場レベルでも実践、評価できるように一定程度、KPIなどの管理指標を導入して、その成果を測定し全社的に確認していく作業も必要であろう。社内におけるCSR推進のドライバーとして機能させるだけでなく、社外のステイクホルダーに対して取り組み状況やその成果を分かりやすく示し、支持を得ていくことが大切である。

さて、昨年のサステナビリティレポートにおいて筆者は「ソーシャル・ニーズの創造への期待」を述べたが、今回は医療分野への光技術「エキシマフィルター」の活用が、実際の治療事例(p5)を交えて特集されている。ウシオ電機は、赤外線や可視光線から紫外線まで光の波長ごとに異なる製品群を持っており、その中でも紫外線域のエキシマランプを活用した医療装置の開発と成果には、とくに大きな期待が寄せられている。

これらの事業は2000年初頭から新規事業開拓の一環として始まったものであり(2003年にはニュービジネス開拓推進室を設置)、10年近くが経過した今、白斑やアトピー性皮膚炎で悩む患者

にとっては、治療効果が高く安全性も確保された画期的な医療技術となっている。こうした医療分野での事業開発には膨大な時間とコストがかかる一方で、収益面での成果がなかなか表れにくいものだと聞く。そのような状況の中で、長期的な視点を持ち、医療や農業などの社会課題分野に積極的な展開をされているのは、同社の事業戦略の根底にCSRやサステナビリティの発想が強く流れているからに他ならないであろう。CSRとは、コンプライアンスや社会貢献活動にとどまるものではなく、こうした短期的には収益に結び付きにくい社会的課題に事業としてかかわっていくことも含む概念である。今回の特集にある医療装置事業が、ウシオのCSRとしてどのように位置付けられるのか、本レポートにおいて明確に示されていれば、さらに読者に分かりやすいものであったと思われる。

今回特集された医療分野以外にも、同社の光学技術を活用することのできるソーシャル・ニーズは数多く存在する。そうしたニーズを新しいイノベーションに結び付けるためには、光学・工学だけでなく医療や農業等の異なる分野にも精通する人材を育成することが必要であり、今後はこれらを含めた人材育成の戦略立案も必要となるだろう。

最後に、ウシオ電機がこれまで長年に渡って育ててこられたCSRやサステナビリティに対する企業文化をさらに醸成し、上述した課題に取り組まれることで、同社が広くステイクホルダーから支持される光創造企業となることを切に願っている。



高崎経済大学
地域政策学部 准教授

土肥 将敦

一橋大学経済学部、一橋大学大学院商学研究科博士後期課程を経て、2009年より現職。商学博士。著書に、『CSR経営—企業の社会的責任とステイクホルダー』(共著、中央経済社)、『ソーシャル・エンタープライズ—社会的企業の台頭』(共著、中央経済社)などがある。

第三者意見を受けて

この度、高崎経済大学准教授 土肥将敦様に、「サステナビリティレポート2012」に対し、貴重なご意見をいただきましたこと感謝いたします。

ウシオ電機は、中期ビジョンで「顧客ニーズを満たす最適なソリューションを常に提案できる【光創造企業】を目指す」という方針を掲げ、光の新しい用途や光の新しい商品を提供することにより成長し、医療や環境、バイオといった社会課題の解決につながる分野

ウシオ電機株式会社 取締役 CSR担当 多木 正

にも、積極的に取り組んでまいりました。そういった意味で、今回、当社のソーシャル・ニーズに対する取り組みをご評価いただきましたことは、励みとなるものです。

また、私たちは、CSR行動計画をさらに充実したものにするために、行動計画の定量的な目標設定を行ない、具体的な方策の実践に務めていきます。そして、社員一人ひとりが、価値を共有して多様な活動を展開してまいりたいと思います。

本冊子の環境配慮について

この「サステナビリティレポート2012」は、環境に配慮した工場で、FSC®認定紙、VOC（揮発性有機化合物）削減効果の高い「水なし印刷」を使ってつくりました。またCTP方式を採用し、製版工程における中間材料を全廃しています。



本冊子に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

発行：ウシオ電機株式会社 CSR部

〒100-8150 東京都千代田区大手町2-6-1

TEL: 03-3242-1892 FAX: 03-3245-0730

<http://www.ushio.co.jp>